

平成 16 年の御前崎市誕生から、毎年続けてきた市政懇談会「タウンミーティング」。みなさんの生の声を直接聞いて市政へ生かしていきたい。今まで様々なやり方をしてきたが、市からの出席者も大勢で、マイクを持つと言いたいとも言えないなどの意見もあった。今年度は町内会と共催させていただき、マイクなしであぐらをかいてざっくばらんに開催することとした。今後地域団体などで要望があればスケジュールを調整して、いつでも出て行きたい。遠慮なく意見を出してほしい。

世界的不況が続く中、今年度一般会計当初予算 173 億 6,000 万円でスタート。直後の 4 月 3 日に 1 億 4,300 万円の補正予算を上程し、市内商工業者の皆さまに元気を出してもらおうと、利子補給や保証料の支援、プレミアム商品券の発行など異例の緊急経済対策を打ち出し、景気対策を図った。ありがたいという意見をいただくが、なかなか効果が目に見えてこない状況。高校生の就職など雇用も厳しい現状だと聞いている。一刻も早い景気回復を願っている。

開港した「富士山静岡空港」から大勢の誘客が見込まれる。このまちの隠れた資源を掘り起こし、しっかり PR していきたい。このたび、韓国のウルチン郡と姉妹都市提携した。ウルチン郡はカニやマツタケが特産で、農業が盛ん。原子力発電所や港もあって御前崎との共通点も多い。先方から申し入れをいただき、調印に至った。空港利活用によって、訪れる人々に対して、もてなす心を大切に、交流促進を図っていきたい。

職員の意識改革はまずあいさつから。ワンストップサービスや接客マナーの向上を図ってきた。行政改革推進委員会も開き、意見をいただく中で限られた財源を効果的に利用しながら 10 年先、20 年先の健全経営を目指して取り組んでいく。

御前崎港のコンテナ取扱量も 5 万 T E U と順調に伸びてきたが、この経済不況で約 4 割程度の落ち込みが見られる。4 航路あった外国貿易航路も 2 航路となってしまった。スズキ株のほかにも県西部地区から荷を入れてもらえるよう協力を要請している。御前崎港を利活用した企業誘致やポー

トセールスに力を入れていきたい。

昨年12月、中部電力の三田社長から原子力発電所の「リブレース計画等」が発表された。54万キロワットの1号機と84万キロワットの2号機を廃炉にして発電能力が同程度の130～140万kwとなる6号機の新設と乾式貯蔵施設を敷地内へつくりたいというもの。国から1・2号機の廃止措置計画の認可が下りたが、市民にとっては市内に建屋が建っている以上は廃止ではない。更地になるまでは交付金は継続してほしいと国や県へも訴えてきた。6号機新設などは市議会や町内会などを通じ、市民のみなさんの意見をしっかり聞いた上で、方向性を決めていきたい。

8月11日に起きた地震で、浜岡原子力発電所では敷き砂利などの陥没が見られたが、主要な設備に被害はなかった。しかし5号機の地震動が大きかった。これには中部電力に対して原因究明と詳細説明を依頼してある。わたしも強い揺れに「ついに来たか東海地震」と恐怖を覚えた。市内の被災状況は軽傷者6人。特に御前崎地区の家屋は被害が大きかった。瓦の落下などが500件あまり出たが、幸いにも重傷者や火災が出なかったことに安堵している。被災された皆さまには心からお見舞い申しあげる。市も反省する点がたくさんあった。また、地震以降の市政懇談会では「まずどうしたらいいのか」、「どこへ逃げたらいいのか」、「市の対応はなっていない」など厳しい意見をいただいた。市では、避難する公民館や学校の鍵の所在や方面隊、自主防災会、消防団との連携など、今回の地震を教訓に防災体制を見直していきたい。災害が発生した際は、市は全力で「公助」の体制をとる。皆さんも、まず自分の命や家族を守る「自助」、隣保班や地域で助け合う「共助」を心がけてほしい。また今一度、家庭や町内会ですぐに避難できる場所を近くに決めておくなど、あらゆる角度から対応や備えを見直してほしい。市民の皆さんが安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指していく。

市内で猛威を振るう新型インフルエンザ。市内でも感染者が増えている。御前崎中学校が修学旅行で集団感染した。一時は感染者が70人ほどまで増加した。自宅待機や学級閉鎖で対応した。皆さんもマスクの着用や手洗い、うがいの励行で、感染予防に努めてほしい。ワクチンも妊婦や子ども、高

齡者から接種してもらいたい。今は豚インフルエンザだが、鳥インフルエンザが流行すれば市内でも 1,000 人程度の死者が出るのではないかといわれている。自分の体は自分で守るようくれぐれも用心してほしい。

今年度の大きな事業として、ケーブルテレビのデジタル化移行に伴う工事が始まった。浜岡地区は無償貸与してある機器を更新、御前崎地区の機器はカードの入れ替えをする。工事に協力してほしい。地デジ化に伴い、無料BS放送も見る事ができる。チューナーを使えば、今までのテレビも使用できる。

今後 10 年ほどの間に約 50 億円の費用が掛かるといわれている。ケーブルテレビの運営も将来厳しいものになる。(株)シーテックに引き取ってもらって、運営してほしいというのが本音。原発立地のまちとしてケーブルテレビは、情報を市民へいち早く伝える手段としてなくてはならないもの。大いに利用してほしい。

病院の医師不足も続いており、医師確保に全力を注いでいく。また、榛原病院も 168 億の赤字という危機的状況の中で民間へ運営委託することになった。榛原病院とは相互協力の中で、先行きを見守っていきたい。今後御前崎総合病院は、地域密着型の病院として力を注いでいく。医師や看護師の確保も引き続き努力していく。今年度から回復期リハビリテーション病棟 38 床をオープンした。入院期間が短く制限されて、リハビリもままならない中で、最大 180 日間リハビリテーションができる。

この地域は車社会。2 年前に静鉄ジャストラインが、相良 - 浜岡ターミナル間が赤字路線で撤退した。その中で皆さんの交通の足を無くしてはいけないということで、自主運行バスを走らせている。通学時は乗車しているが、そのほかの時間帯はほとんど利用されていない。今後は福祉タクシー券を「本当に必要な人が有効に活用できるシステム」と併せて、より良い方法を考えていく。皆さんのアイデアも寄せてほしい。

合併協議会の中で決められた、御前崎から高松までを結ぶ東西線は現在佐倉を進めている。今後、用地や補償など事業推進に協力願いたい。

御前崎地区の下水道事業は、すでに設計調査に取り組んでいる。合併浄化槽とのエリア調整など、今後は地元説明会を開いていく。

来年度は市民会館を耐震補強したい。席が減っても通路や座席をある程度広げていきたい。

国や県の補助金がもらえるかは不透明な部分もあるが、都市計画も進めていきたい。

高齢化が進む中、地域格差のない整備は大切。農家離れや収益不足で荒廃農地が増えていく中で、一次産業へのこ入れが急務。農業ビジョンの策定の中で対策を練っていく。JA から職員を派遣していただき、農業者のノウハウなど専門知識も生かす中で、サポートしていきたい。

企業立地も景気低迷の中で、厳しい状況にある。スズキ(株)も牧之原工場に主力を置くものの、牧之原市中里から進めたい意向のようだ。今後は景気の動向を注視しながら、関係者と情報交換していきたい。

教育は、県からも高い評価を受けている。少子化の中、御前崎の宝が健全に育っていくよう、支援員を当ててしっかりと教育している。市の援助だけでなく、教育環境の健全化には、地域や家庭の皆さんにも協力してほしい。浜岡中学校の環境は非常に乱れている。家族・地域・学校が一体となって真剣に取り組んでいかなければならない。御前崎の宝をしっかりと育てていきたい。

来年度予算の編成をしているが、法人市民税や個人市民税の減などで歳入が 30～35 億ほど減る見込み。

自動車のナンバーや警察の管轄など、市制誕生からさまざまな「ねじれ現象」があったが、徐々に解消してきた。ここへきて浮上してきた消防の広域化も、御前崎市は古くから続く小笠消防との関係を重視し、西部地区の東端として西を向いて活動していきたいと思っている。

みなさんの意見を聞き、住んで良かったと言われるまちづくりを進めていきたい。

今日は忌憚ない意見を出してほしい。